
お昼の肉。

零夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お昼の肉。

【Nコード】

N4771Z

【作者名】

零夜

【あらすじ】

両親をなくした少年に執事がやってくる。

そして、昼に最高の肉とトマトスープを出すのだった。

両親は、行きたいどこへ？

(前書き)

親を亡くした。可愛そうな子供、
そして、ある日の昼、

出てきたうまい肉とトマトスープ。
だが・肝心の両親は、どこへ？

僕の親は、二人とも行方不明だ。

幼いころ。僕が遊びから帰ってくる、

「パパ？ママ？どこ？どこにいるの？」

見つからなくて泣きじゃくる僕を一人の男が拾ってくれた。

「君ですね？名前は、？」

「僕の名前は、レイ」

「レイお坊ちゃま。ですね？私は、明日からあなたの執事を勤めます。」

「ブレンです。よろしくお願ひします。」

「執事ってなーに？」

と頭の悪い僕は、尋ねる。

「執事とは、お坊ちゃまに使える者。親のような存在です」

そして、そのブレンとの生活が始まり。

昼になって、

「今日は、トマトスープと最高品種の肉でございます。では、ごめ
つくり」

「味わうことにするよ」

言うと、ブレンは、ニコッと笑って部屋を出て行った。

一通り食事が終わると、執事が来る。

「どうでしたか？」

「うん。最高だったよ！また作ってくれ。」

「分かりました。」

と言うと執事は、今後の予定など。僕に教えた跡に。
出て行った。

「そう言えば、俺の両親は、どこに行ったんだろっ？
どこかで、死んだのかな。」

END

(後書き)

どうも!!!「気づかない」では、ポイントありがとうございました!!!

今回もこの話についてです。主人公は、親を亡くしていますよね。それで、執事が拾ってくれた。そして、ある日の昼、うまい肉とトマトスープ

が出てきます。そして、主人公は、うまいものばかりを食べます。そして、次第に太りだすでしょう。また作ってくれ、とも言いました。

つまりどう言う事かと言うと。「親は、行方不明ではなく。殺され。レイの腹の中で

生き続け。さらには、レイも材料、そして、また違う子供の親を殺し食わせ。

の繰り返し」そして、材料を保管している場所に。何体の人肉や血があるかと想像させられると。はつきり言って、不気味ですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4771z/>

お昼の肉。

2011年12月16日02時50分発行